

胃がん検診について

智頭病院 内科医師 山本健嗣

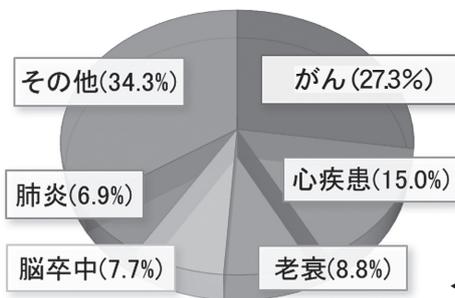


暑い時期になりましたが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。今回は胃がん検診についてお話しします。

胃がん、大腸がんについて

日本は長寿大国でありながらも、年々がんの患者数は増えています。現在は4人に1人以上ががんで亡くなると言われており、がんは身近であると同時に無視できない疾患です。臓器別だと肺、胃、大腸の割合が多く、検診でも重要になってきます。胃がんについては内視鏡検査、バリウム検査があります。大腸がんについては検便検査を実施しています。便潜血陽性であれば大腸内視鏡といった精密検査を受けて頂くよう案内をします。

日本人の死亡原因(2020年)



がん死亡数 (臓器別)2020年	1位	2位	3位	4位	5位
総数	肺	大腸	胃	膵臓	肝臓
男性	肺	胃	大腸	膵臓	肝臓
女性	大腸	肺	膵臓	乳房	胃

▲日本人の臓器別がん死亡数 (2020)

◀日本人の死亡原因 (2020)

上部内視鏡(胃カメラ)とは

上部内視鏡は食道、胃、十二指腸を観察します。頻度の多い慢性胃炎やポリープの他に、逆流性食道炎、胃十二指腸潰瘍、胃がん、食道がんの有無がわかります。またそれらのリスクになるピロリ菌は内視鏡所見が大変参考になります。



なぜ胃がん検診を毎年受けるように言われるのでしょうか。それは病気の早期発見を行う目安が年一回だからです。胃がんは十数年前までは手術でしか切除できないとされており、全身麻酔下の手術であるため胃がん治療は患者様の負担が大きいのが課題でした。ですが、医療技術の進歩により早期胃がんであれば内視鏡治療によって胃がん切除できるようになりました。

つまり胃がんが早期発見できれば手術を要せずに内視鏡治療でがん切除できる場合があります。

しかしながら、早期胃がんは無症状であり、内視鏡検査をしなければ発見出来ません。このことから年一回の上部内視鏡検査が推奨されるのです。上部内視鏡の検査時間は10分程度ですが、その一回の検査で多くの情報がわかるため重要な検査だと私は考えています。

内視鏡検査を苦手とされる人は多いです。のどの不快感やカメラを飲み込むのが苦手など様々な意見を聞きます。十分な喉麻酔処置をする、経鼻内視鏡を選択し鼻からカメラを挿入することでのどの違和感を軽減するなど、検査負担を減らす工夫を行います。当院では経口、経鼻内視鏡のどちらかを選べます。心配な人は相談ください。

最後に

病気の早期発見や自身への健康意識を持つためにも、検診を受けましょう。

今年度から住民健診の受付は6月から始まっています。まだの人は当院健診センターに申込みください。